

住みよいまちづくり情報誌

Vol.43

平成29年3月26日

発行 住みよいまちづくり新莊会  
 (水戸市新莊市民センター内)  
 (〒310-0036) 水戸市新莊2-11-2  
 Tel.029-221-7851  
 責任者 住みよいまちづくり新莊会  
 会長 川又 一郎  
 編集 新莊会広報部  
 印刷 常磐総合印刷株式会社  
 題字・坂 俊治

## 新莊学区の常住人口

世帯数 3,008

男 2,826 女 3,156 合計 5,982

(平成29年2月1日現在)

## 年齢別人口

0 ~ 14 才 532 (8.9%)

15 ~ 64 才 3,434 (57.4%)

65 才以上 2,016 (33.7%)

(平成29年2月1日現在)



市民サロンで大盛況のバザー

三月五日(日)、新莊市民センターにおいて「新莊ふれあいまつり」が開催され、曇天のなか、延八百人の地域の皆様に参加しました。ホールにおいて利用団体十二の発表会、小会議室では指圧体験教室、和室では裏千家・石州茶道、市民サロン及び玄関前・事務所・調理室においてバザーと模擬店販売が行われました。バザー等の売上金は社会福祉協議会新莊支部に寄贈されます。

## 新莊ふれあいまつり

した。最後に抽選会が行われ、会場は大変盛り上がり、楽しく終えることができました。

## 歩く会

借楽園・千波湖  
地域の水戸路

十一月十三日(日)、新莊地区歩く会が、さわやかな秋晴れのもと、スポレク部計画により紅葉の借楽園・千波湖地域の水戸路において実施されました。参加者は六十九人で、登り下りのある約八キロのコースを三時間を掛け歩きました。

コースは市民センター出発後、歴史館のいちょう並木前を抜け、好文亭表門から借楽園東門を経て、千波湖三キロを一気に周回。好文茶屋前・公園センターで休憩後、もみじ谷の紅葉を見て、桜山・歴史館を抜け市民センターに帰着しました。

帰着後はスポレク部女性の献立・配食による混ぜご飯・豚汁・浅漬けの昼食をいただきました。

かなり早いペースでしたが一人の落伍者もなく終了することができました。歩数は約一万歩(男子)でした。



新莊地区歩く会参加者、歴史館いちょう並木にて

# 新莊ふれあいまつり

## 発表会等の一部紹介



踏愛会・ウイング(ダンス)



コーラス



フォークダンス



メネフニ(フラダンス)



歌謡



童謡



友美会(民謡)



歌の花クラブ(合唱)



いきいきヘルス体操



はまゆう会(民舞)



石州茶道



模擬店(蕎麦、クッキー等)



市民の集い、市長挨拶

・四十五年勤続  
大森 勇(馬口労町二丁目)  
・十五年勤続  
富田 實(馬口労町五丁目)  
伊藤 和雄(新莊二丁目十二)  
・十年勤続  
鈴木 秀則(砂久保町四区)  
橋本 久雄(砂久保町五区)  
中村恵美子(木の折町二区)

第二十一回  
水戸市民の集い。  
交通安全市民大会開催

二月二十二日(水)、県民文化センター小ホールにおいて行われた水戸市民の集いで、次の方々が永年勤続町内会長・自治会長ほう賞を受賞されました。

## 新莊小学校防災訓練

十一月九日(水)、新莊小学校児童の一連の防災訓練がアリーナ(体育館)及び校舎前において実施されました。

特に、炊き出し体験実習は、アリーナで児童が炊飯袋に米を入れ、これを支援要員が校庭での大型ガス釜で炊き出すもので、今年で三回目となります。引き続き新莊会、新莊地区女性の会が支援にあたりましたが、学校側の事前の準備と学習がよくなされ、児童上下級生からなる炊飯袋のグループ作業がスムーズかつ迅速

## 応急給水器具操作訓練

また、今回の防災訓練に併せて、新莊市民センター前広場において、昨年度配備された応急給水器具の操作訓練を、新莊地区住民を対象に、市水道部指導の下行いました。

この応急給水器具は、折りたたみ式コンテナ(一トン貯水槽、一人三リットル袋×三百三十三人分)と専用架台及び応急給水栓(四栓により分配給水)からなり、災害等断水時に市民センターにおける飲料水の仮設給水所としての機能します。市民センターの倉庫に常時保管され、緊急時の給水の際は、西側のバルコニー上に住民側で組み立てたの

速に行われました。炊飯袋の米の作り方も、めんつゆ味付け、閉じ方、並べ方など工夫し、改善が見られました。試食会も大変好評でした。



グループ毎の炊飯袋米作り



応急給水器具 全図

ち、市管工事業組合がトラック等でその都度コンテナに貯水し、応急給水栓から住民個人に給水します。この器具は、新莊小や東町運動公園の大型給水槽の補助として、災害時運用されます。

## 新莊地区人権啓発講演会

### 議題「笑いが一番」

十二月十三日(火)、市民センターホールにおいて、人権週間にあわせ人権啓発の講演会が、五十七人の参加者を得て開催されました。

講師は、元山町在住の水戸大神楽十八代家元柳貴家正楽師匠で、大神楽の世界を例に人権についてその巧みな話術と演芸で、終始笑いの絶えなかった。

光圀公時代に始まった水戸大神楽の伝統が民衆の心を和ませ平和にし、また、男女差別などのない開かれた社会を築き今日に受け継がれていることを分かり易く説明していただきました。



講師 柳貴家正楽 師匠



## 水戸黄門漫遊マラソン応援

昨年十月三十日(日)開催の第一回水戸漫遊マラソンにおいて、全国各地からのランナーへの応援を新莊地区の皆さんに呼びかけましたところ、百名を超える方々が応援にかけつけ、一万一千人余りの発走者に熱い声援を送っていただきました。

第二回は今年十月二十九日(日)開催が決定しました。今年も水戸の心を発信しましょう。



神応寺付近新莊地区応援団

## 新莊スポレク部主催

## ユニカール大会で和気あいあい

九月二十五日(日)(一回目)及び二月十二日(日)(二回目)の午前、今年度のユニカール大会が市民センターホールにおいて実施され、それぞれ三十九名、四十二名が参加し十三チームにより一チーム二、五試合の和気あいあいゲームを楽しみました。

本年度から「はかまつか杯」を設け、入賞者を讃えることになりました。



はかまつか杯と賞品

### 《結果》

#### 【一回目】

優勝 榎沢・三田部・松枝◎チーム  
二位 塙・佐川・鈴木克典チーム  
三位 志賀・相沢◎・竹貴◎チーム  
【二回目】  
優勝 鈴木克典・鈴木照子・佐川チーム  
二位 山部・若松・松枝◎チーム  
三位 榎沢・河野・田口チーム



最年少参加者

## 新莊散策

## 末広町神力堂

日蓮宗法榮山本行寺  
第五代住職 鯉淵光晴

本堂正面及び二横綱寄贈の石鳥居

末広町の神力堂を紹介します。このお堂は、常陽銀行末広町支店前の国道一一八号線をへだてた北西側（末広ビル隣）にあります。

この神力堂は、松本町、末広町が馬口労町と呼ばれた大正・昭和期に、現在の場所から二、三十メートル離れた場所にあります。が、クランク状の道路を真っすぐにする道路拡張工事を行ったため、現在の場所に移設しました。その結果、現在は敷地が縮小し、本堂と石の鳥居、石碑などが、凝縮した形で建っております。移設前の境内は、ボール投げができるほど広く、長旅の馬に水を飲ませたり休憩させる場所だったと伝わります。

## ○神力堂の由来

この神力堂は、肥後熊本領主加藤清正公が携えていた守り神を大洗磯浜に安置し祀ったのが始まりだと伝わります。清正公が亡くなった後その一族は、清正公ほど信心はなかったため、家来に命じて、慶長年間（一六〇〇年前後）清正公の崇拝していた守り神を水戸家に献上し遷座しようとした。海路無事、那珂湊・水戸に運び入れられたが何らかの理由で受け入れられず、大洗磯浜に運び一時安置しました。

天保一三年（一八四二年）には、磯浜の田山某がこれを譲り受け、磯浜の別の場所にお堂を再建しました。信徒も沢山おり、その二一年後には信徒協議によりお堂を修理したようです。以後、明治二十七年（一八九四）、磯浜に安置してから三〇〇年目にしてようやく正式な参拝の場として県に認められました。

## ○神力堂の水戸遷座

磯浜の神力堂は、水戸始め関東の各大店商人の参拝者が多くありましたが、磯浜が不便なため、明治末には当初予定されていた水戸への遷座の機運が高まりました。明治四五年（一九一二）、本行寺住職金子即審上人（四代前）は、以前から同じ日蓮宗門の磯浜神力堂の折袴・祭司などを行っていた縁あって、小泉茂兵衛、大高織右衛門や富田菊三郎

始め水戸の名だたる商人と相談し、水戸への移転出願を行いました。本行寺が所管することとなり、当初敷地内への遷座を考えましたが、土地が山形状による狭隘と老樹の鬱蒼のため叶わず、馬口労町に建立することになり、日蓮宗門に申請しました。

大正二年、磯浜の土地売却と神社移転が認可され、馬口労町二二三番地の土地を大高こう氏から買って本堂を建立し、本行寺に寄付することとなりました。なお、一方の資料では、磯浜から運んだ神社は城下町人の総元締をしていた馬口労町の豪商・大高織右衛門屋敷の敷地庭内に遷座したと記述されていますが、これは本堂を建立するまで一時保管していたときを指しているのではないかと思います。大正三年の遷宮式は、横綱常陸山と梅ヶ谷が東京から来て参列し、二横綱の寄進した石の鳥居を持ち込む牛車は大工町の芸奴連のはやしたてる屋台を先頭に町々をねり歩き、市中の有志が黒紋付袴姿でそのあとに続く豪勢なものだったと伝えられています。また、石堀の芳名版は各大店商人の名を連ね、遷座時の商人の寄附金は大変なものだったようです。

## ○ご神体の命名

神力堂のご神体（清正公の守護神）は、どのような神様かは不明であり、特定の神様ではな



本堂に祀った神力宇賀大明神

いことからこれを意味する「宇賀大明神」の名をつけたようです。また、清正公が熱心な日蓮宗の信者であったことから、これを示す「神力」の名を冠して「神力宇賀大明神」と呼ばれ、今日に伝わっています。

また、馬口労町に遷座した当時、神力堂のご神体は、商人の親しみを込めて、営業繁昌の神力宇賀大明神と呼ばれたようです。なお、このご神体は、稲荷神社の稲荷神とは異なるようです。

## ○神力堂の今日

現在、神力堂は、引き続き本行寺僧侶がお守りし、毎月（28日）行並びに節分会など定期的な祭事が行われています。また、本堂は老朽化が激しく雨漏り対策などの処置がなされているところ。境内の見所としては、特に、水戸出身の常陸山と当時の梅ヶ谷の二横綱が寄進した石の大鳥居が、本堂前にあります。

## 敬老会

平成二十八年度 新莊地区

九月十九日（月）、新莊地区敬老会が快晴のもと、新莊市民センターホールにおいて行われました。招待者一五四人中四二九人が参加し、式典では市長はじめご来賓の方々に祝辞を頂き、アトラクションでは、バンド演奏、防災講話、レクダンスが行われ、会場が大変盛り上がり、楽しく終えることができました。

今回の敬老会では、一〇〇歳を迎えられた丹尾フジエさんの紹介がありました。



丹尾フジエさん



健康体操をする参加者の皆さん

## 編集委員会

川又健志・塩井雅子・神尾和子